

2021年6月15日

ボストン サイエントフィック ジャパン、腎癌の冷凍療法に用いられる冷凍手術器の承継によりインターベンショナルオンコロジーポートフォリオを拡充

ボストン サイエントフィック ジャパン株式会社（本社：東京都中野区）は、腎癌の凍結療法として使用される冷凍手術器「Visual-ICE®」と「CryoHit®」の製造販売承認が同社に承継されたことに伴い、2021年6月1日よりこれら製品の販売を開始した。

「Visual-ICE®」と「CryoHit®」は、腎臓の腫瘍を凍結させて壊死させる凍結療法や凍結アブレーションと呼ばれる治療法に用いられる手術器。同治療において、局所麻酔で直径約1.5mmの凍結用の針をCTやMRIで確認しながら病変へ刺入し、高圧アルゴンガスによる急速な冷却により細胞内外の水分が凍結することで、腫瘍を壊死させる。凍結治療は患者への侵襲性が低く体への負担が少ないことから、入院期間や日常生活への復帰までの期間が短くなるため、今後さらなる普及が見込まれる治療法である。

同社代表取締役社長スティーブン・モース氏は、「当社は、腎癌や肝臓がんなどのがん治療のフランチャイズを含め、インターベンショナルオンコロジーの医療ポートフォリオを充実させ、治療の選択肢を増やすことにより世界各国で医療貢献を推進している。日本においても今回の承継を機に、インターベンショナルオンコロジーの領域に貢献を果たすべく全力で邁進します。なお、2019年にがんや肺塞栓症といったアンメットニーズがある重要な分野において成長するポートフォリオを有するBTG社がボストン・サイエントフィック社の一員となり、この領域の先駆者としても革新的な医療機器を提供することが可能になった。」と述べている。